

## 平成 19 年度第 1 回米子市同和対策審議会議事録（概要）

日 時：平成 19 年 4 月 17 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時

場 所：米子市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

出席者（順不同、敬称略）

委員 9 人 後藤巖、内田信義、西川章三、赤井堯、井上千恵子、小椋美香子、左野史子、  
玉木久美子、小原莊七

欠席委員 斉木定家、田子良雄、遠藤良子

事務局 佐藤人権政策監、和泉人権政策課長、足立同和対策係長、黒見主幹

傍聴者 なし

日 程

1 開会

2 市長挨拶

3 報告事項

4 審議事項

米子市の今後の同和対策の方向について

5 その他

6 閉会

審議事項

「米子市の今後の同和対策の方向（案）」について事務局から説明し、審議に入った。

発言要旨

（A 委員）

同和問題についてはハード・ソフト両面でかなり改善されてきたが、アンケートにもあるように部落差別は依然として多発している。また、インターネットを使ったねらい打ちのような部落差別も発生している。そのような中で、同和対策を後退させるような議員の発言も見られる。

県地区の人権・同和教育推進協議会の中の話では、協議会として取り組むべき課題が沢山出ているにもかかわらず、委託料をカットされた関係で、例えば今まで年間 5 地区くらいで開催していたのが、開催地区を減らして 3 地区に減らさざるを得ないような状況が出てきている。

小地域懇談会の中では、以前は部落差別そのものがテーマになっていたが、今ごろは人権ということで地域懇談会が行われている。それはそれとしていいが、それに伴って部落とか同和とかということが、全部オブラートにくるまれているようになっていないか。部落とか、同和という文言がどんどん失われていく危険性があるのではないかと危惧している。被差別部落がないところでは、特にそういった傾向が出てくるのではないか。

（B 委員）

新聞によると、鳥取市が同和対策事業について廃止する方向ということで、市の同和対

策審議会のほうに相談されているということだ。米子市ではそのような方向では考えていないということだと思うが、その辺の気持ちを聞かせていただきたい。

(人権政策課長)

鳥取市は、現在まだ同和对策審議会に諮っている途中であり、全部が確定したものではないと聞いている。ただ、方向として色々な事業の見直しをされているということは伺っている。

米子市としては、実態調査の結果、なお差別が存在しているという状況から、引き続き必要な事業は進めていかなければならないと考えている。ただ、非常に財政状況が厳しいということがあるので、その中で全ての事業にわたって適切な見直しを行っていかねばならない状況である。

そういうことで、差別の実態があるということでも当然すすめていかなければならない部分はあるが、その中で、市全体の財政状況を考慮し、見直しすべきものがあるとするれば、それは考えていかなければならないと思っている。

(C委員)

ここ2年、人権・同和教育研究集会に出ているが、以前は解放同盟の女性会議のかたにも女性問題のほうに参加いただいていた。ところが途中から脱退されたため、その間の交流がない。

学校教育で一生懸命やっというのに、家庭に帰ってからどういうかたちになるのか、女性の考え方も小地域懇談会のなかに含まれているのか、そのこのへんを疑問に思った。そのため人権・同和の研究集会のときも一言そのことを、来年度からは、女性団体のほうの女性の部会も作って欲しいということをお願いした。

そこを掘り起こしてもらおうと、家庭に帰ってからの家庭教育が深まっていくのではないかなと思う。以前は、いい関係でやらしていただいていたが、ぜひ復活していっしょに問題を語りあって解決の方法を導いていきたいと思う。

(議長)

その辺は、相談してみます。

(D委員)

小地域懇談会が1年に2か所くらいになった。これまで3回くらいあったので、それぞれ担当者が出かけに行き、全職員がどこかの会に出かけるようにしていた。それが2回になったため2つに分かれていくと、教員の方が沢山になって、地域の方が少ないというようなこともあったりする。

地域の方に、沢山出ていただくよう何とかしてくださいとお願いするが、学校としては出ていっても地域のかたとなかなか交流できないところもある。

(A委員)

地区のほうで、課題はどんどん出ているのに従来やっていた回数を減らさないといけないうことを言われた。だから3年に1回という思いが欠けてくるのではないかな。人権尊重のまちづくりが叫ばれている中、後退するような形が出てくると困る。

地区の人権・同和教育推進協議会(以下「同推協」と記載します)のやり方がまずいからと言われれば、自分たちも検討していかなければいけない。

(人権政策課長)

小地域懇談会の委託料は17年度から18年度になる段階で2割削減したが、19年度は据え置いている。開催については、基本的には自治会単位ですようお願いしているし、今度の地区同推協の会長会でもそのようをお願いすることにしている。

ここ数年見てみると、極端な例では5~6自治会が一緒になって開催されるという現実もある。そうすると結果として多くの自治会が参加しているから自分が出なくてもいいわと、結果として参加人数が減ってきているという状況もある。これについては、地区同推協の会長会の中でもお話しさせていただき、極力1つ若しくは2つの自治会ぐらいで開催していただくようお願いしていきたいと考えている。

それからA委員がおっしゃっておられたテーマの問題では、若干同和問題から遠のいている方向にあることは否めない。以前は同和教育一本に絞っていたが7~8分野の中からテーマを選んでいただいていることから、相対的に同和問題を取り上げる機会が減ってきているということは現実としてある。

昨年開催した小地域懇談会の中で、複数のテーマを扱っていただいているところもかなりあるので、そうしたときに同和問題が全くないかということも必ずしもそうではなく、全体の5~6割ぐらいのところと同和問題を扱って頂いているような状況である。ただ、やはり私どもが7~8分野提示させて頂いているので、他の分野について小地域懇談会を開催しようということも現実には増えてきている。

そのテーマであるが、米子市全体をとおして高齢化が進んでいるということもあり、高齢者の問題が、皆さんの感心が高く、そういうところに少しウェイトが傾きかけているというような状況がある。

(議長)

地区同推協が活発でないところは、できるだけ同和問題はずしていくという傾向があるわけで、それが結果的に子どもの差別事象などいろんな形になって現れている。それは言い方は悪いが、調査してみればおばあさんから聞いたとかおじいさんが言っていたとか、そのことを子どもが受けて平気で言うような差別発言等があった。

そういうことで私のほうも何度も言っているが、やはり何年かに一度はきちっと同和問題に取り組んでほしい。それぐらいの気持ちがない場合は、A委員さんがいわれたように同和問題から逃げていく。人権問題の解決を考えるには、同和問題が柱である。7分野8分野あるが、その柱を何年かに一度きちんと確かめるような取り組みをしてほしい。そうしないと、結果的に同和問題からみんな逃げていくということになる。そういう意味で改善を求めたい。

(E委員)

私も昨年度勤務する学校が替わったが、同じことを感じている。自治会単位で何か所かやるのでなく、1か所に集まってやられるような事があるし、議長がおっしゃったような傾向がみられる。それで何とかしないといけないという感じは私自身も感じている。

そのあたりで、地区の人権・同和教育推進協議会あたりで何とか良い方向にいくように、てこ入れでもしていかなければいけないと感じた。

(議長)

やはり、小地域懇談会の中で同和問題をきちんと扱っていくような取り組みをしてほしいという意見があった。予算のカットというのは米子市全体でやっているわけだが、その影響がもろに出るようなやりかたということではなく、知恵をしぼって出来るだけ多くの人が参加できるような開催方法の検討、この2点をよろしくお願いしたいということによるしいか。

(F委員)

学校での同和研修では、教員とPTA役員の参加があるが保護者の参加が少ない。その意識が反映しているのか、実態調査によっても同和問題は現実には変わっていないんだと、恥ずかしいことながら改めて感じた。自分は同和地区を含む学校をでているので、熱心な同和教育を受けてきた。同和地区を含む学校とそうでない学校では、取り組みに違いがあるように感じる。同和地区を含まない学校ではどのように取り組んでいくのか、難しい問題であると思う。

(議長)

地区を離れていった人はもっとひどいことになっている。地区で学んでいるから子どもは耐えることが出来る。

鳥取市では、同和教育をやめようとか隣保館事業を全部やめようとか、補助金カットしようとか非常に厳しい意見が今出ている。それがすんなりなるようであれば大変なことである。鳥取市にいる同和地区の人たちがどんな怒りをもって、どのようになっているのかということもなるので、マスコミがいかに同和事業の廃止を、決まったような書き方をするとするのは失礼なことと思う。

(A委員)

この案は、いい具合にまとめてあると思う。部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくそうということが言われているが、部落差別が差別の原点だと思う。女性差別、障がい者の差別だとか色々な差別があるが、その差別の一番中心的な課題は部落差別であると思うから、小地域懇談会の話題を取り上げたところである。

(G委員)

人権擁護委員として相談にあずかっているが、結婚の相談は生活相談員さんが受けているので自分は受けることはないが、離婚の問題でずっと話を聞いていくと部落差別の問題を含んでいたり、子どものいじめの問題も部落の問題が底辺にあったりすることがある。だいぶ改善されたなという目で見えていたが、話をきいてみると本当にがっかりするようなこともある。もっとみんながんばってやらないと行けないと思う。

(議長)

小地域懇談会については、解放同盟も米子市も腹にきちんと納めて取り組んでいくということで、答申は答申と言うことで原案のとおり市長に報告したい。

小地域懇談会についてはきちんと取り組んで行って頂きたい。皆さんよろしいですか。

各委員了承